

## 私の内弟子体験 シャーンドル・ツェー



小林道場での内弟子経験のある人に会った時から、自分も同じことをしようと心に決めていました。そしてついにその十年來の長い夢がかなったと言えます。一生に一度のことかもしれませんが、とにかくその経験から最大限得られるよう努力しようと決心しました。もちろん内弟子生活についての色々な話は既に聞いていました。その過酷さについて・・・。

そんなわけで、私は最善を尽くし、周りの人々を満足させ、荣誉ある「今月の最優秀内弟子」賞を獲るぞ、という意気込みで、この住み込み修行に臨みました。

最初のきつい数週間が過ぎた頃には、先生方が私に知っておいてもらいたいと考えている道場における全てのルールや習慣が、何とか分かるようになり、体の痛い箇所の数と同じくらい多くの友人ができました。

やがて、ホームシックを乗り越えてからは、小林道場の重要な要素の一つ「楽しい雰囲気」が感覚として理解できるようになってきました。この生活は耐えられないほど辛くはありませんでした。なぜなら、ベストを尽くすことを要求はされますが、私に提供されるものもベストだからです。



忙しい稽古のスケジュールの合間をぬって盆踊りに行ったり、日光の観光や温泉に行ったりする機会もありました。束の間の休息をとることで、身も心もリフレッシュすることができ、また最も好きな稽古を続けることができるようになりました。



自分の中の変化といえば、疲労に対する考えが変わったということです。最初、寝不足の状態は心地良いものではありませんでしたが、だんだんと長い一日を楽しめるようになりました。実際、帰国してもこの習慣を続けられればと思うようになりました。

毎週、ブログにその前の週のことを書いていました。読み返してみると、一週ごとにリラックスしていき、必要な時は周りの仲間が助けを差し伸べてく

れるのだと、感じるようになっていっています。小林道場は、単に同じ趣味を持つ人々の集団、というだけでなく、一つの大きな家族のようでもあります。

高段位者や指導員であっても厳しく稽古に打ち込む姿勢、また、お互いを敬う態度、向上心、それら全ては、私にとって帰国しても忘れられない心の支えとなりました。

このかけがえのない「夏」を、住み込み修行の機会を私に与えることで経験できるようにして下さり、また、日々の生活をむすび基金で支えて下さった、道場長と副道場長には感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさま ホントニ アリガトウゴザイマシタ！

